

# Topic 50

## 米国ウィスコンシン州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) ウィスコンシン州の VCP

---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、ウィスコンシン州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

### 1) こんなところです

ウィスコンシン州は五大湖のスペリオール湖とミシガン湖に隣接している、人口約 550 万人を抱える州です（人口密度は約 40 人/k<sup>2</sup>弱）。1848 年 5 月 29 日、30 番目に米国に加入しました。私がウィスコンシン州から連想するのは「大草原の小さな家（原作：大きな森の小さな家）」です。この作品は地元出身の Laura Wilder 女史によって綴られた小説で、その小説をもとにテレビドラマが作成されました。NHK でご覧になった方も多いのではないのでしょうか。一面に広がる草原（プレーリー）、手作りの丸太小屋のお家、ミルク絞りをするシーンなど印象的です。ミルクといえば、同州には牧畜・酪農地帯が広がっており、乳製品の生産は米国 1 位 2 位を争うほど。「ウィスコンシンには人より牛の方が多くいるんだ」なんて話を耳にしたりしますが、実際のところは人口の方が多いようです。酪農同様に、農業も同州の主要な産業であり、とうもろこしをはじめ、実に様々な農産物を生産しています。

同州の州都はマディソン市。同市にはウィスコンシン大学システムの本部が所在しており、「リトル バークリー（カリフォルニア州）」というニックネームがつけられるほどの学術都市です。同大学には日本の多くの浮世絵が収集されていることで知られていますが、これは世界的に有名な建築家フランク ロイド ライト氏によって収集された作品たちだそうです。それから、同校にはリスク&保険プログラムがあり、その質は全米トップレベルにランキングされています。そういえば、ついこの間（今週火曜日と水曜日）同大学のビジネススクールと環境リスク情報協会（Environmental Risk Resources Association）主催で「環境リスク管理戦略」というセミナーが開催され、環境リスク管理、環境保険、環境会計の第一人者らが講演されていたようです。

マディソンから車で 3 時間ぐらいミシガン湖へ向かってドライブすると、同州の最大都市であるミルウォーキーが見えてきます。ここは Miller ビールを生産している Miller Brewing の本社の誕生の地。人口はマディソンの 3 倍程度で、醸造関係のお仕事についている方々が多いそうです。

確かにウィスコンシンは酪農、農業、食品加工業において米国をリードしています。でも州の財政への貢献度合いは製造業の方が大きいのです。ブラウンフィールドがあってもおかしくないですね。

## 2) ウィスコンシン州の VCP

本州にも土壤汚染サイトの自主浄化プログラムがあります。州の自然資源局によって運営されている浄化修繕と開発プログラムがそれに相当します。

ここでちょっとプログラム活動の一連の流れを見てみましょう。

### ステップ 1

- ・ まずはプログラム登録。
- ・ 州が登録者のプログラム登録資格を確認します。
- ・ 規定を満たしている場合、州が案件をレビューして、承認を検討します。

### ステップ 2

- ・ 承認された場合、Phase I および Phase II を実施します。必要に応じては、州法に則ってより詳細なサイト調査を実施することもあるそうです。
- ・ 浄化活動の必要性を検討します。もし浄化する必要がなければ、この時点で州から環境責任の免罪符を受け取ることができます。

### ステップ 3

- ・ 浄化活動が必要な場合、州法に則り浄化方法が選定されます。

### ステップ 4

- ・ 具体的な浄化計画をデザインし、いよいよ浄化活動が開始です。

### ステップ 5

- ・ 州が浄化終了を認めた場合、環境責任の免罪符を受け取ることができます。
- ・ 必要があれば、モニタリングを継続的に実施します。

ここでステップ 5 について詳細を述べさせてください。同州では 2001 年からケースに応じて地下水の Natural Attenuation の採用を認可しています。Natural Attenuation を採用している（つまりリスクベース浄化後にモニタリングが実施されている）サイトの所有者に対しても免罪符が与えられるのですが、ある条件を満たしていなければなりません。それは、州のプログラムを通して環境保険に加入することです。言葉を変えると、Institutional control を採用するなら保険に入りなさい、と州が要求しているのです。なるほど、ウィスコンシンでは学術レベルでもリスク保険等の教育・研究が盛んなそうですから、それとなんとなくリンクしている感じがします。

さらにもう 1 つお伝えしたいことがあります。それは同州の環境負債免除のメカニズムの 1 つです。州は免罪符を受け取った土地所有者に対して、たとえ将来法改正があつたとしても環境責任を負わされることはありませんよ、という約束をとりかわしています。これはとても重要なポイントです。今はいいけれど、これから世の中どう変わるか分からない。そんな VCP 登録者の

心配を緩和する試みなのでしょうか。ちなみに同州で州を通して自主浄化を完了したサイト数は約 14,000 件（2004）と見積もられており、米国中西部の州の中では桁違いに多いです。

来週は、ミネソタ州の VCP をご紹介いたします。お楽しみに。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

Nickname -- 「The Badger Dominion (badger はあなぐまのことですが、1830 年代にこの州にある鉛鉱山で働く人たちが、ほら穴に住んでいたことが、その起源になっているそうです)」「The Dairy State; America' s Dairyland (dairy は乳製品のことで)」「The Cheese State (年間 100 万トン以上のチーズを生産)」「The Copper State (銅もとれる)」

事例紹介 --Green Bay (グリーンベイ) : ガソリンスタンド用地→タクシー会社→グリーンベイ市→調査・浄化→再開発、という図式です。ガソリンスタンドなので、鉛やベンゼンなどのガソリンに含まれる物質による汚染が発生していました。ついでに申し上げると、日本では規制物質になっていませんが、アンチノッキング剤としてガソリンに添加されていた MTBE という物質による汚染もあったそうです。560m<sup>3</sup> の土壌は掘削除去されて、バイオパイルと呼ばれるところで微生物によってきれいにされ、他の再開発工事で使われています。一方、地下水の汚染は、希釈や微生物分解などの自然のメカニズムを利用する Natural Attenuation で浄化・コントロールされました。

浄化された跡地は、付近住民の希望が取り入れられてお値打ち食料品店になり、3 人のフルタイム、17 人のパートタイムを雇用、土地の値段も、浄化前後で 10 倍近く UP しました。州の免罪符や、州商務省の石油環境クリーンアップ基金も活用してのプロジェクトには、行政マンの熱意も注ぎ込まれていたのだそうです。

(<http://www.dnr.state.wi.us/org/aw/rr/archives/pubs/RR731.pdf>)